

問い合わせ先
第七管区海上保安本部交通部
安全対策課長 宮本 裕臣
電話 093-321-2931(代表)内 2640



令和元年 12月 4日
第七管区海上保安本部

冬季のマリンレジャー気象・海象に要注意！

～天候不良時の海難が多発（死亡事故も発生）～

第七管区海上保安本部管内では、11月下旬以降、荒天時の運航不能（荒天難航、走錨、浸水等）海難が連続して6隻発生しています。

また、磯場において、ライフジャケット非着用の釣り愛好者が磯波にさらわれ海中転落し死亡する海難も発生しています。

これから荒天が増える冬季を迎えます。天気予報を必ず確認するなど気象・海象に十分注意し、荒天が予想される場合の出港見合わせ、ライフジャケットの着用など万全の安全対策を講じましょう。

1. 事故発生状況

11月24日から30日までの間に、天候不良時の海難が多発しています。

発生状況は次のとおりで、事前の気象・海象情報の確認不足、天候変化に伴う活動中止の判断がなされていないことや、釣り中の死亡事故においてはライフジャケットの非着用が要因と考えられます。

(1) プレジャーボート海難（※死亡・行方不明者なし）

・11月24日(日)	モーターボート	運航不能（荒天難航）	1隻
	モーターボート	運航不能（走錨）	1隻
・11月27日(水)	カヌー	運航不能（荒天難航）	1隻
・11月30日(日)	ミニボート	浸水	1隻
	ミニボート	運航不能（その他）	1隻
	ゴムボート	運航不能（その他）	1隻

(2) 釣り中の海難

- ・11月30日(日) 磯場からの海中転落 1名
※ライフジャケット非着用（死亡）

2. 事故防止のための注意点

- 活動開始前の気象・海象情報の確認、更に活動中においても情報収集や現場状況の確認を確実にし、早期の活動中止の判断を行いましょう。
- 活動中にはライフジャケットなどの安全装備を確実に装着し、磯場での釣りなどは単独行動を避けましょう。
- ◆ 海上保安庁では気象の現況・警報・注意報、緊急情報等を電子メールで配信するサービスを提供していますので、登録・活用をお願いします。

スマートフォン用
サイト



緊急情報配信
サービス



【参考 1】

1. プレジャーボート及び釣り中の海難発生状況(11月24日から30日まで)

(1) プレジャーボートの主な海難状況

① 11月30日(土)、福岡県玄海島沖で2名乗組みのミニボートが船外機へ燃料補給中、バランスを崩して船尾から浸水、その後乗組員2名は海中転落。海中転落した2名は、付近で遊漁中のプレジャーボートが発見し、救助されました。

また、同日、大分県佐伯市沖で1名乗船のミニボートが友人を乗せた無動力のゴムボートを曳航して帰港中のところ、潮流の影響でミニボートの船外機の馬力では曳航することができず航行困難となり救助を要請し、巡視艇に救助されました。

本年の第七管区海上保安本部管内でのミニボート海難は、12月1日(日)までに15隻発生しており、昨年同時期に比べ5隻増加し、過去10年間で最多となっています。

② 11月24日(日)、山口県萩市沖で遊漁を終え帰港中の3名乗組みのプレジャーボートが、天候が急変し波が高くなり航行困難となったことから、救助を要請し、巡視艇警戒のもと定係地へ入港しました。

また、同日、山口県蓋井島で1名乗組みのプレジャーボートが、天候が急変し波が高くなり航行困難となったことから投錨して救助を要請中、折からの強風にあおられ走錨し、付近岩場に乗揚げ、水難救済会の救助船に救助されました。

(2) 釣り中の海難状況

11月30日(土)、山口県川尻岬で友人数名と磯釣り中、磯場の先端で釣った魚をタモ網に入れようとしたところ、急に打ち上がった波で足を滑らせて海中転落。磯場まで泳いで這い上がろうとするも上がることができず、その後、水難救済会の救助船に救助されましたが、搬送先の病院で死亡が確認されました。事故者はライフジャケットを着用していませんでした。

2009年から本年11月30日までの間における釣り中の海中転落による死亡・行方不明者数は157人であり、この内、ライフジャケットを着用していた方は34人(22%)と低く、ライフジャケットを着用していれば助かった海難も少なくありません。

安全にマリンレジャーを楽しむために

1. ミニボート海難防止のための注意事項

- 見張りを確実に！
航行中、釣り中も全周にわたり常時、適切な見張りを行うこと。
- 船のバランスに注意！
ミニボートは船体が小さく軽量であるため、揺れやすく不安定で、重心が高くなるほど、ボートが傾いた際の復元力が失われ、浸水や転覆の危険性が高まるので、乗船者や積載物の配置に注意すること。
- 波・風に注意！
ミニボートは横波や後方から波をうけると、転覆や船内への浸水の危険性が高まるため、波が高い場合（波高20cm以上）や、風が強い場合（風速4m/s以上）は出航を差し控えるとともに、海上で風や波が出てきた場合は早めに帰航すること。
- 航行距離に注意！
ミニボートが安全に航行できる目安は岸から1km以内（沖に出ない）、出航地から2km以内（出発地点から遠くに行かない）、且つ、自力（オール）で帰ることができる距離を航行すること！
- 他船から気付かれにくいことに注意！
ミニボートはその小ささから、他船から見えにくいもの。大型船、漁船、プレジャーボート等との衝突を防ぐために、認識旗等の目立つものを3m以上の高さのポールに掲げること。また、錨泊中は認識旗とともに黒球を掲げ相手に知らせること！
- 自己救命策の確保を！
ライフジャケットを着用するとともに、連絡手段を確保すること。

2. 釣りをする際の注意事項

- 無理をしない！
釣りに行く際は、事前に釣り場所の天気予報を確認し、自分の体調も考慮して決して無理はしないこと。
また、海上では雨、雷、風、波や流れなどは時間とともに変化するため、自然環境の変化に注意すること。
- 単独行動をしない！
万が一に備え、ライフジャケットを着用し仲間と行動すること。
- 釣行計画を第三者に伝えておく！
釣りをする場所・帰宅予定時刻を家族や釣り仲間などの第三者に予め伝え、定期的な連絡を行うこと。
- 立ち入り禁止区域に入らない！
立入禁止区域が設定されている場所には絶対に入らないこと。

【ウォーターセーフティガイド】

カヌー、ミニボート、SUP（スタンドアップパドルボート）や釣りといったウォーターアクティビティを誰もが安全に安心して楽しむための事故防止情報はこちら！





カヌー



釣り



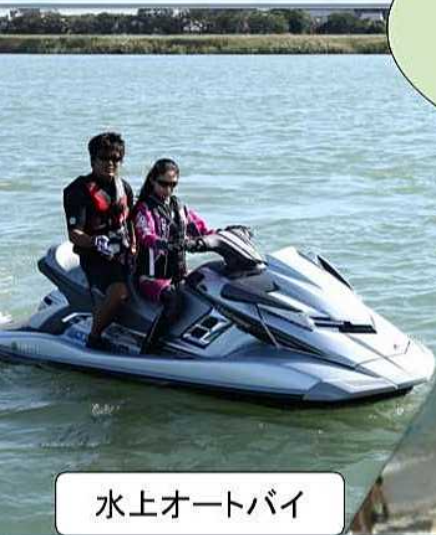
SUP



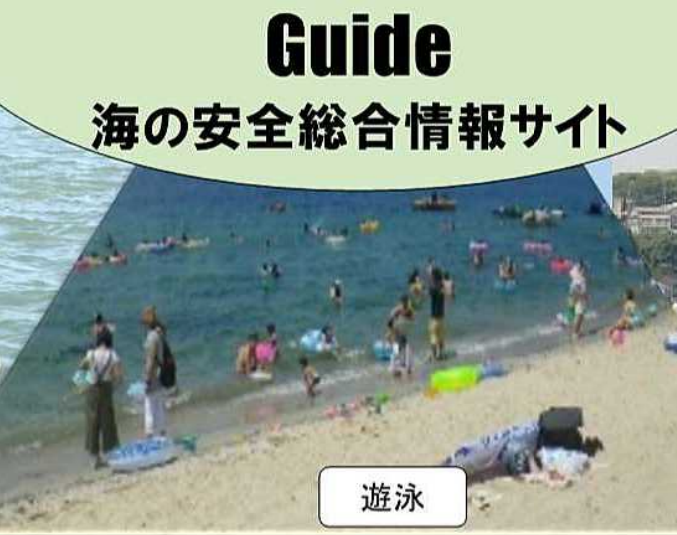
Water Safety Guide

海の安全総合情報サイト

水上オートバイ



遊泳



ミニボート



出航前の点検

出航前の点検項目 (ショットオン (トップ) カラック)

ドレンプラグ (イメージ) ハッチカバー



- ① ハッチカバーの状況 (破損、水漏れの有無)
- ② ドレンプラグの状況 (閉じていることを確認)
- ③ その他、装備品の状況 (防水バック、ロープの準備など)

交通ルール

行会い船



互いに右に転じて避ける

海の危険生物



装備品



©JCGF

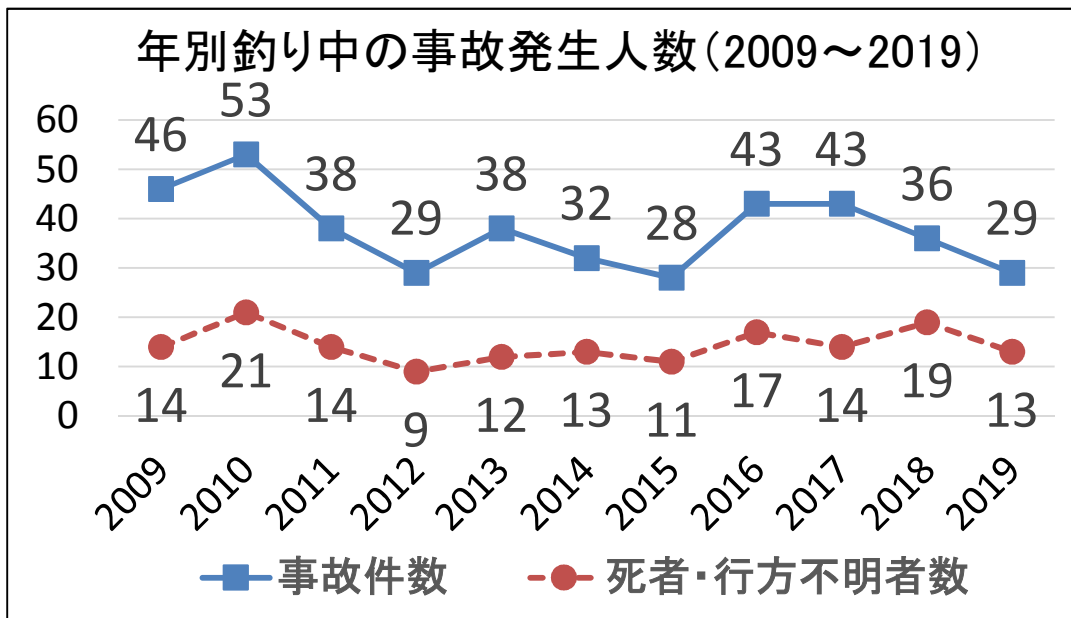
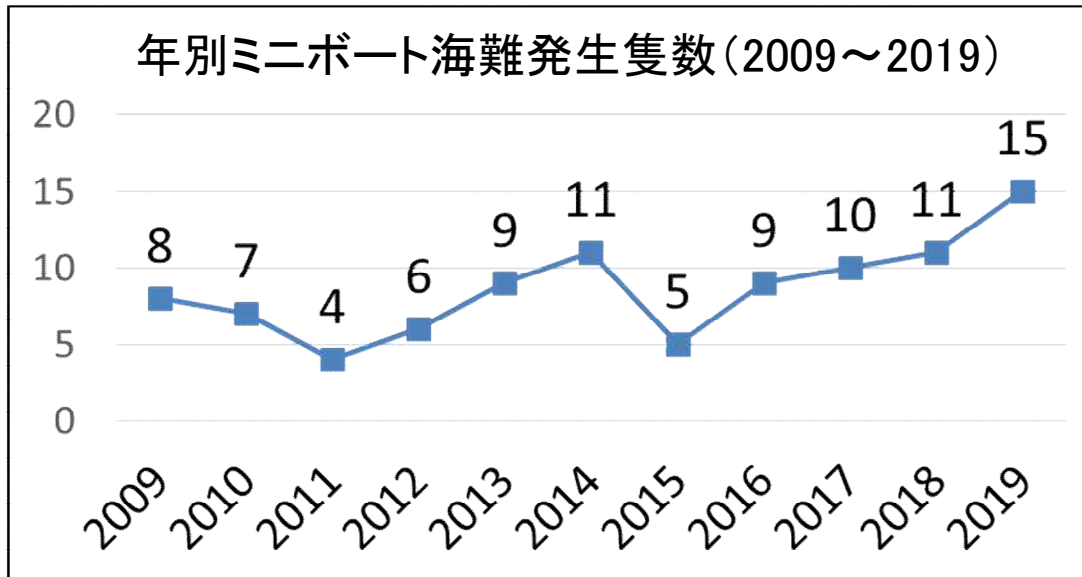
海に関する知識、利用する乗り物の特性や装備、習得すべき技術、交通ルール等について掲載してるよ。

https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety.html

海上保安庁交通部安全対策課
03-3591-6361



2019年11月30日現在



釣り中の死亡・行方不明者のライフジャケット着用率
(2009~2019)

